

令和 7 年度

シラバス (専門教科)

～生活情報科 2 年～



鹿児島県立伊佐農林高等学校

生活情報科 2 年 専門教科

生活コース

生活産業情報	・ ・ ・ ・ ・	P 1
保育基礎	・ ・ ・ ・ ・	P 3
ファッション造形基礎	・ ・ ・ ・ ・	P 5
フードデザイン	・ ・ ・ ・ ・	P 7
生活文化	・ ・ ・ ・ ・	P 9

情報コース

ビジネスコミュニケーション	・ ・ ・ ・ ・	P 1 1
商品開発と流通	・ ・ ・ ・ ・	P 1 4
簿記	・ ・ ・ ・ ・	P 1 7
原価計算	・ ・ ・ ・ ・	P 2 0
情報処理	・ ・ ・ ・ ・	P 2 2
ソフトウェア活用	・ ・ ・ ・ ・	P 2 4

生活産業情報	単 位 数	2 単位
	学科・学年・学級	生活情報科・2 学年・生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	・情報処理に関する基本的な技術や知識を身につけ、実生活の中で活用できるようになる
使用教科書・副教材等	生活産業情報（実教出版） 日本情報処理検定協会主催問題集

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい 評価基準	備考 (学習活動の特記事項 他)	考 査 範 囲
第 1 学 期	第 5 章 各種アプリケーション の基本操作 (1) 文書作成ソフトの利用	4	・パソコンの基本的な操作ができる ようになる ・文書の入力ができるようになる ・文書作成を効率よく行うことが できるようになる。 ・身につけた知識と技術を生かし てヒューマンサービスに関する 情報コンテンツの作成ができる ようになる。 ・様々なメディアの特性とコミュ ニケーションの特徴を理解し、 情報コンテンツに関連する技術 を身に付ける。 ・ Google for education , Maicrosoft365 によるアプリに ついて理解する。		中 間 考 査
	第 4 章 生活産業におけるコミ ュニケーションと情報 デザイン (1) メディアの特性	5			
	クラウド学習ツールの活用 1	6			
		7			
【課題・提出物等】 作成した文書、振り返りシート					
【第 1 学期 の 評点方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適宜配分し評価する。学期末において、観点ごとの総合評価を行う。					
第 2 学 期	第 4 章 生活産業におけるコミ ュニケーションと情報 デザイン (2) コミュニケーション (3) 情報デザインの課題	9	・目的や対象に応じたコミュニケ ーションの方法や、情報デザイ ンについて課題を発見し、その 解決に向けた取組を考えること ができる。 ・表計算ソフトを用いて、デー タベースの作成や処理方法を理 解し、技術と知識を身につける。 ・身につけた知識と技術を生かし てヒューマンサービスに関する 情報コンテンツの作成ができる ようになる。 ・クラウド上でのアンケート作成	日本語ワープロ検定	中 間 考 査
	第 5 章 各種アプリケーション の基本操作 (2) 表計算ソフトの利用	10			
	クラウド学習ツールの活用 2	11			
		12			

			の方法を理解し、作成および調査ができる。			
	【課題・提出物等】 作成したグラフ、アンケートフォーム、振り返りシート					
	【第2学期 の評点方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総合的評価を行う。					
第3学期	第5章 各種アプリケーションの基本操作 (4) プレゼンテーションソフトの利用	1	・プレゼンテーションソフトを用いて、自分の持っている情報を他者へわかりやすく正確に伝えられるプレゼンテーション技術を身につける。 ・身につけた知識と技術を生かしてヒューマンサービスに関する情報コンテンツの作成ができるようになる。		学年末 考 査	
	【課題・提出物等】 作成したプレゼンテーション、振り返りシート					
	【第3学期 の評点方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総合的評価を行う。					
	【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。					

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技術」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	生活産業情報に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、理解している。	・ 定期考査 ・ 授業で使用するプリント
思考・判断・表現	情報収集や活用における基本的な知識を身に付け、それらを実生活のなかで活用することができている。	・ 実習における作業の状況 ・ 定期考査 ・ 授業で使用するプリント ・ 課題のまとめの仕方
主体的に学習に取り組む態度	情報処理に関する関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し意欲的に活用しようとしている。	・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ 実習への参加状況 ・ 課題に対する取り組み ・ 授業で使用するプリント

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・ キーボードを見ずにタッチができるように意識しながら実習に取り組みましょう。 ・ 学習内容の到達目標として日本語ワープロ検定の3級または準2級受験に挑戦しましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・ 授業に遅れないこと。 ・ 忘れ物をしないこと。 ・ わからないことは積極的に質問すること。
その他	パソコンを使って文書作成やデータ処理など、基本的なソフトの使い方をしっかりと身につけましょう。また、プレゼンテーションソフトを使って作成し発表することをおして、表現方法を学びましょう。

保育基礎	単 位 数	3 単位
	学科・学年・学級	生活情報科 2 年 生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 保育の意義や方法，子どもの発達や生活の特徴など保育に関する知識と技術を習得する 2 子どもの健全な成長を図る能力と態度を習得する 3 保育に関する課題を見つけ，解決する力を習得する
使用教科書・副教材等	保育基礎 保育基礎学習ノート（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 基 準	備 考 (学習活動 の特記事項 他)	考 査 範 囲
第 1 学 期	第1章 子どもの保育	4	・保育とはどういうことか、なぜ保育について学ぶのか、考える ・人の一生のなかで乳幼児期の持つ意味と重要性を理解する ・乳幼児期の発達課題を理解する ・子どもの発達が他者とのかかわりによって促されることを理解する ・子どもの成長が様々な環境とのかかわりによって促されることを理解する ・子どもがどういう存在であったのか、どのように考えられていたのか理解する ・発育・発達・成長の意味と関係について理解する ・乳幼児期の身体の発育の特徴について理解する ・発達の共通性について理解するとともに、個人差があることを理解する ・乳幼児期の発達の様子と、周囲の人間関係とのかかわりについて考える ・乳幼児期の心の成長には愛着が重要であることを理解する ・子どもの人格形成に周囲の大人が影響していることを理解する		1 学 期 中 間 考 査
	1 保育の意義				
	2 保育の方法				
	3 保育の環境				
	第2章 子どもの発達	5			1 学 期 期 末 考 査
	1 子どもの発達の特性				
2 子どものからだの発育					
3 子どもの心の発達					
【課題・提出物等】 ・課題の提出					
【第1学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
第 2 学 期	第3章 子どもの生活		・乳幼児の生活の特徴と適切なあり方について、実習を通して理解を深める ・子どもが健康的な生活を送るための大人の役割について考える ・乳幼児期に必要な栄養と食生活の特徴について知り、食事が生活習慣の確立や心の発達に大きな影響を持っていることを知る ・乳幼児に適した衣服の素材や形を知り、寝具やおむつの使い方を理解する ・子どもにとって遊びがどのような意味を持つのかを考える ・子どもにとって良い遊びはどのようなものか考える ・子どもの病気の特徴や住まいの中の危険を理解する ・子どもの健康を守るための保護者の役割を知る	乳幼児向けの食事作り 紙おむつを使った実習 幼児向けのおもちゃ製作実習	2 学 期 中 間 考 査
	1 子どもの生活と養護				
	2 生活習慣の形成	7			2 学 期 期 末 考 査
		9			
		10			
	3 健康管理と事故防止	11			
	12				

第 3 学 期	【課題・提出物等】 ・ 作品，課題の提出				
	【第2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。				
	第4章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場 2 子どもの遊びと表現方法	1 2	・ 家庭環境，社会環境，自然環境について具体的に考える ・ 乳幼児の基本的欲求や社会的欲求に着目し，心身の発達に応じた保育について考える ・ 家庭保育と集団保育の特徴を理解する	壁面構成製作 実習 外遊び実習	学 年 末 考 査
	第5章 子どもの福祉 1 子ども観 2 子どもの福祉 3 子育て支援	3	・ 児童福祉に関する基本的な法律と制度を理解する ・ 近年の子育て支援に関する施策について考える		
	【課題・提出物等】 ・ 課題の提出				
	【第3学期の評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				
【年間の学習状況からの評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。					

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

皆さんの学習状況は，「関心・意欲・態度」，「思考・判断・表現」，「技能」及び「知識・理解」の4つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・乳幼児の生活および発育発達の様子等，保育に関する基礎的・基本的な知識を身につけているか。 ・保育に関する基礎的，基本的な技術を身につけているか。	・定期考査 ・学習活動への取り組みや態度 ・課題に対する取り組み ・授業で使用するプリント
思考・判断・表現	・子どもを取り巻く社会の問題について理解し，身近なものから主体的に解決するために思考を深め，適切に判断し，工夫し創造する能力を身につけているか。 ・自分の意見や学習したことをまとめたり，発表したりすることができるか。	・定期考査 ・授業で使用するプリント ・課題や作品 ・発言や発表の仕方と態度 ・課題のまとめの仕方
主体的に学習に取り組む態度	・子どもや保育について興味・関心をもち，授業に積極的に取り組んでいるか。	・実習における作業の状況 ・課題や作品 ・授業で使用するプリント
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・ 1時間1時間を大切に，しっかりと取り組んで欲しい。
授業を受けるに当たり守ってほしい事項	・ 教科書，学習ノート等，学習に必要なものを忘れないこと。 ・ 課題の提出期日は厳守する。
その他	・ 自分が育ってきた過程を知り，命の大切さを感じ，将来，職業人または家庭人として育児に携わることがあると思われるので，この教科でしっかりと学び，将来に生かして欲しい。

ファッション造形基礎	単 位 数	4 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科2年（生活コース）

1. 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 被服構成の基礎，構成技法，被服材料の特徴などに関する知識と技術を習得させる。 2 洋服の製作に関する理論と技術を習得させる。
使用教科書・副教材等	教科書：「ファッション造形基礎」（実教出版） 副教材：家庭科問題集 被服編（全国高等学校家庭科教育振興会）

2 学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 規 準	備 考 (学習活動の精選事項他)	考 査 範 囲
1 学 期	1 章 衣服の構成 2 節 立体構成		・ 立体構成における特徴を理解し、 平面構成との違いを理解する。		中間 考 査
	1 章 衣服の構成 1 節 人体と衣服	4	・ 着用目的や個性、季節にふさわ しい被服材料の素材や色、柄につ いて考える。		期 末 考 査
	2 章 衣服の素材 1 節 衣服素材の種類	5	洋服における基本的技法を学び、 その効果について理解する。		
	2 節 衣服素材の性能と 種類	6	・ 洋服製作に関する基礎的な知識・ 技能を修得する。		
	3 章 洋服の製作 2 節 ブラウス・シャツ の製作	7	・ 作品に応じた適切な仕上げ方が できる。		
	【課題・提出物等】 ・ 作品，課題の提出				
	【第 1 学期の評価方法】 ※学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的 評価を行う。				
2 学 期	3 章 洋服の製作 2 節 ブラウス・シャツ の製作	9	・ 学習し修得した知識と技術を生 かし，洋服製作ができる。	家庭科技術検定被服 製作洋服 2 級	中間 考 査
		10	・ 着用者の寸法で原型を描くこと ができる。		期 末 考 査
	3 章 洋服の製作 2 節 スカート製作	11	・ 仮縫いと補正の方法と意義を理 解する。		
		12			
		【課題・提出物等】 ・ 作品，課題の提出			

【第2学期の評価方法】				
※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
3 学 期	3章 洋服の製作 2節 スカート製作 3節 着装	1 2 3	・ファスナー、ホックつけなど、洋服製作の技術を習得する。 ・製作した作品を着装し、着心地や縫製の状態を確認する。	学年末 考査
	【課題・提出物等】 ・作品，課題の提出			
	【第3学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。			
	【年間の学習状況の評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。			

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は「知識・技能」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	・ 洋服を中心とした被服の構成や製作に関する基礎的な知識を身につけているか ・ 洋服製作に関する基礎的な技術を習得しているか	・ 定期考査 ・ 作品
思考・判断・表現	・ 洋服について理解し、適切な選択のできる能力を身につけているか	・ 定期考査 ・ 実習中の態度
主体的に学習に取り組む態度	・ 洋服の歴史や構成に関心を持ち、積極的に実習に参加しているか	・ 実習への参加の仕方や態度 ・ 授業で使用するプリント
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

(3) 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・ 毎時間の積み重ねで、技術の差が出てくる。1時間1時間を大切に、意欲を持って実習に取り組んで欲しい。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・ 提出期日は厳守すること。 ・ 時間いっぱい取り組むこと。 ・ 教科書・ファイル・プリント・作品等は自己管理すること。
その他	・ 実習の技術や、作業の進度など個人差はありますが、目標に向かって努力を続けましょう。

フードデザイン	単 位 数	4 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年・生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 日本の食生活の現状と課題を把握し、食事作りの喜びや集団での食事の楽しみを知り、輸入食品によって支えられている食糧事情を理解し、食物を大切にする心を養う 2 栄養素の種類とはたらきについて理解し、それらの消化吸収過程を把握する 3 食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる
使用教科書・副教材等	フードデザイン（実教） フードデザインワークノート（実教） 家庭科問題集 食物編（全国高等学校家庭科教育振興会）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい 評価基準	備考（学習活動の特 記事項他）	考 査 範 囲
第 1 学 期	第1章 健康と食生活 1 食事の意義と役割 （1）からだをつくる食事 （2）食生活を豊かにする食事 2 食を取り巻く現状 （1）栄養素の接種の変化と現状 （2）生活習慣病と欠食 （3）ライフスタイルの変化 （4）食料自給率と食品ロス （5）食品の安全と環境の変化 第2章 栄養素の働きと食事計画 1 栄養素の働き （1）食物の摂取と栄養 （2）炭水化物脂質 （3）タンパク質 （4）ミネラル （5）ビタミン	4 5 6 7	・食べることは生きるためだけでなく、様々な意味を持つことを理解し、食事と団らんの重要性を知る。 ・私たちの栄養の摂取状況について知る。 ・食の外部化や食料自給率の低下などの諸問題について正しい知識を身につけ、「食」について自分なりの考えを確立する。 ・各栄養素の種類と栄養的意義、それらの栄養素を含む食品について理解する。 ・各栄養素の代謝経路と役割を理解する。 ・各栄養素の必要性を理解し、バランスよく摂取する重要性を理解する。 ・日常食の調理実習をとおして、知識と技術を習得する。	○食物2級検定練習 ・実技 ・献立作成 ・筆記	中間 考 査 期 末 考 査
	第6章 フードデザイン実習				
	【課題・提出物等】 定期考査の訂正ノート、調理実習記録（プリント）、ノート・ファイル（学期末）				
	【第1学期の評価方法】 ※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
第 2 学 期	第3章 食品の特徴と表示・安全 3 食品の選択と表示 4 食品の絵性と安全 第2章 栄養素の働きと食事計画 1 栄養素の働き （6）その他の食品成分 （7）エネルギー 2 ライフステージと栄養 （1）乳幼児期の栄養 （2）青少年期の栄養	9 10 11 12	・食品を選択する際に注意するところを知る。 ・食中毒の危険性について知り、正しい予防方法を理解する。 ・食品に記載された情報の正しい見方を知り、食品選択に役立てることができるようになる。 ・食物摂取の必要性や、健康を維持するために必要な栄養摂取量、ライフステージごとの栄養摂取の特徴を理解する。 ・日常食の調理実習をとおして、知識と技術を習得する。	○食物2級検定練習 ・実技 ・献立作成 ・筆記 ○食物2級検定 ・実技 ・献立作成 ・筆記	中 間 考 査 期 末 考 査
	第6章 フードデザイン実習				

第 3 学 期	【課題・提出物】 定期考査の訂正ノート，調理実習記録（プリント），ノート・ファイル（学期末），2級献立			
	【第2学期の評価方法】 ※ 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。			
	(3) 成人期の栄養 (4) 高齢期の栄養	1 2 3	・食物摂取の必要性や，健康を維持するために必要な栄養摂取量，ライフステージごとの栄養摂取の特徴を理解する。 ・日常食の調理実習をとおして，知識と技術を習得する。	○調理実習 ・日本料理 ・西洋料理 ・中国料理
	【課題・提出物等】 定期考査の訂正ノート，調理実習記録（プリント），ノート・ファイル（学期末）			
	【第3学期の評点方法】 ※ 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。			
【年間の学習状況の評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

(2) 評価の観点，内容及び評価方法

皆さんの学習状況は，「知識・技能」，「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技術	・食生活に関する基礎的，基本的な知識を身につけているか。 ・食生活の充実・向上を図るために，必要な基本的基礎的な技術を身につけているか。	・定期考査 ・技術検定 ・実習における作業の状況
思考・判断・表現	・食生活を見直し，課題を見つけられるか。 ・課題解決を自ら考え適切な判断をしているか。	・定期考査 ・授業で使用するプリント ・発言や発表の仕方と態度
主体的に学習に取り組む態度	・食生活に関する知識・技術を習得するために自ら進んで学習活動に参加しているか。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・実習への参加状況 ・課題に対する取り組み ・授業で使用するプリント
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・授業の内容をしっかりと聞き，不明な点はそのままにせず質問をしましょう。 ・実習は事前の説明から内容をしっかりと把握しておきましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業に遅れないこと ・エプロン・三角巾等の忘れ物をしないこと ・調理実習の記録，反省，感想の記入は忘れずに行うこと
その他	実習の多い授業です。調理実習では，少しでも作業の時間を確保できるよう，チャイムより前に調理実習室へ来て，着替えまで済ませておきましょう。 食物技術検定2級の全員合格を目指して，皆で意識を高め合いながら頑張りましょう。

生活文化	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年・生活コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	実践的・体験的な学習活動を通して、日本文化である茶道・着付けに関する知識と技術を習得させ、日本の文化や礼儀作法を大切にする態度を身につける
使用教科書・副教材等	学校茶道 初級編 (財団法人 今日庵)

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい 評価基準	備考(学習活動の特記事項他)	考 査 範 囲
第 1 学 期	1 茶道のこころ	4	・茶道を学ぶ上で大切な礼儀や、心得について理解する。		期 末 考 査
	2 実技編	5			
	6 実技	6	・茶道の道具、床の間、菓子などについての基本的な知識を理解する。		
	7 実技	7	・割り稽古、盆略点前の実践		
	【課題・提出物等】 授業の記録ノート（毎時間授業終了時）				
【第1学期の評価方法】 定期考査の得点、学習活動への参加状況・態度、実技の習得度を総合的に判断して評価します。					
第 2 学 期	4 茶道の成り立ち	9	・茶道の成立までの歴史や、茶道の歴史的な位置づけ、伝統について知る		期 末 考 査
	5 茶席の心得	10	・立ち居、振る舞いと客の心得を知る。		
	6 実技編	11	・茶道の道具、床の間、菓子などについての基本的な知識を理解する。		
	7 実技	12	・割り稽古、盆略点前の実践		
	【課題・提出物】 授業の記録ノート（毎時間授業終了時）				
【第2学期の評価方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
第 3 学 期	8 茶道の基礎知識	1	・茶室、露地、茶花など、茶道の基礎知識を理解する。		学 年 末 考 査
	9 浴衣の着付け	2	・浴衣の着付け、帯結びの基礎知識を理解し技術を身に付ける。		
	10 浴衣の着付け実技	3	・和服の起居動作やマナーについて、実習を通して体験的に理解し実践できる。		
	【課題・提出物等】 授業の記録ノート（毎時間授業終了時）				
【第3学期の評点方法】 ※学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。					
【年間の学習状況の評価方法】 ※各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。					

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

学習状況を、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・茶道に関する基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、茶道の実践的な技能の習得ができています。	・定期考査 ・学習活動への参加の仕方や態度
思考・判断・表現	・茶道について、基礎的・基本的な知識を身に付け、より向上するために工夫し自ら考え選択することができる。	・学習活動への参加の仕方や態度
主体的に学習に取り組む態度	・茶道について興味・関心を持ち、授業に積極的に参加している。	・学習活動への参加の仕方や態度 ・出席状況
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

(3) 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・積極的に授業に参加すること ・繰り返し点前の練習をし、頭とからだの両方で身に付けること
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・非常勤の先生に来て頂き行う授業です。時間厳守で始められるようにしましょう。 ・教科書、ファイルは必要なときにすぐ出せるよう、決まった場所へ保管しておき、テスト勉強期間は必ず持ち帰りましょう。
その他	・茶道は初心者の方の生徒がほとんどです。分からないことはその場で聞き、基本的なことから習得していきましょう。 ・全員がお点前を習得できるよう、一生懸命取り組みましょう。

教 科	商業	科目	ビジネス・コミュニケーション		単位数	2単位
学 級	生活情報科 2 学年		教科書 副教材	ビジネス・コミュニケーション ビジネス・コミュニケーション準拠問題集		
教科の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。					
科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
評価の観点	知識・技能：知		思考・判断・表現：思		主体的に学習に取り組む態度：主	
趣 旨	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。		ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。		自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。	

第 1 学 期 学 習 指 導 計 画

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価基準(評価方法)
			知	思	主	
4	1 編 1 章 企業の組織と人間関係	1. 企業の組織と意思決定	○	○		・組織の構造と意思決定の関係を理解する。(問題演習) ・業務の適切な進行方法やそれを実践する重要性を理解する。(行動観察) ・業務の効率化に必要なスケジュール管理方法を理解する。(行動観察) ・社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解する。(行動観察) ・人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を理解する。(行動観察)
		2. 業務の進行方法	○	○	○	
		3. 仕事に対する心がまえ	○		○	
		4. 人的ネットワークの構築	○	○	○	
5	2 編 2 章 応対に関するビジネスマナー	1. 挨拶	○	○	○	・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。(行動観察) ・身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解し、実践する。(行動観察) ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。(行動観察) ・名刺交換の方法と紹介のルールを理解し、実践する。(行動観察)
		2. 身だしなみ・表情・身のこなし	○	○	○	
		3. 言葉遣い	○	○	○	
		4. 名刺交換と紹介	○	○	○	

6		5. 訪問・来客の応対	○	○	○	・訪問・来客の対応などを理解し、実践する。(ロールプレイング) ・電話対応における適切なコミュニケーションを理解し、実践する。(ロールプレイング) ・席次のマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。(行動観察)
		6. 電話の応対	○	○	○	
		7. 席次のマナー	○	○	○	
7	中間考査	実施せず				
	3章 交際に関するビジネスマナー	1. 交際のマナー	○	○	○	・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。(ロールプレイング) ・食事のマナーの基本、西洋料理・日本料理・中国料理・立食スタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。(行動観察) ・効果的な接客に必要な知識や態度について理解し、実践する。(ロールプレイング) ・ホスピタリティについて理解し外国人に対する接客の注意点について考察する。(行動観察)
		2. 食事のマナー	○	○	○	
	4章 接客に関するビジネスマナー	1. 接客	○	○	○	
		2. ホスピタリティの概念と重要性	○	○	○	
	期末考査					
	考査返却					
生徒の学習状況の評価方法		定期考査の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。				

第 2 学 期 学 習 指 導 計 画

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価基準(評価方法)
			知	思	主	
9	3編 5章 コミュニケーションの役割と思考方法	1. コミュニケーションの役割と種類	○	○	○	・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。(行動観察) ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。(行動観察) ・論理的な考え方とビジネスにおけるフレームワークを理解する。(行動観察)
		2. ビジネスコミュニケーションの基本	○	○	○	
		3. ビジネスにおける思考方法	○	○	○	
10	6章 ビジネスにおけるコミュニケーション	4. ディベート	○	○	○	・ディベートの方法を理解し、主体的に活動に参加する。(行動観察) ・ディスカッションの方法や意義を理解し、討論することができる。(行動観察) ・プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行うことができる。(行動観察) ・交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を理解し、実践する。(行動観察)
		1. ディスカッション	○	○	○	
		2. プレゼンテーション	○	○	○	
		3. 交渉	○	○	○	
		4. 苦情対応	○	○	○	
	中間考査	実施せず				

11	7章 コミュニケーションとビジネススキル	1. 会議	○	○	○	・会議の目的と種類, 基本的な流れや会場設営, 議事の進め方や議事録の作成方法などについて理解する。(行動観察)
		2. 文書におけるコミュニケーション	○	○	○	・文書の種類と内容, 社外文書・社内文書の作成方法, 電子メールの利用, はがきや封筒の書き方や郵便物の特殊なサービスなどについて理解する。(行動観察)
12	4編 8章 企業活動のグローバル化	1. 国際化の進展とビジネス	○	○	○	・市場の国際化, ビジネスシーンの国際化について理解する。(行動観察)
			○	○	○	・ビジネスに必要な英語について自ら学び, ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。(ロールプレイング)
		2. 国際ビジネスにおけるコミュニケーション	○	○	○	・ノンバーバルコミュニケーションの重要性について理解する。(行動観察)
			○	○	○	・コミュニケーションツールとしての英語について理解する。(行動観察)
			○	○	○	・ビジネスに必要な英語について自ら学び, ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。(ロールプレイング)
	期末考査					
		考査返却				
生徒の学習状況の 評価 方法		定期考査の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。				

第 3 学 期 学 習 指 導 計 画

月	学習項目	学習内容や学習活動	評価の観点			評価基準(評価方法)
			知	思	主	
1 2	9章 ビジネスの会話	1. 国内での接客	○	○	○	・国内で外国人を接客する際に必要となる英語について実務に即して理解する。また, 関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング)
		2. 入国	○	○	○	・外国に入国する際に必要な英語について実務に即して理解する。また, 関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング)
		3. 商談と会議	○	○	○	・商談や会議を行う際に必要な英語について実務に即して理解する。また, 関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング)
		4. 帰国	○	○	○	・ホテルのチェックアウトから空港での出国手続に至るまで帰国の際に必要な英語について実務に即して理解する。また, 関連する技術を身につける。(行動観察)(ロールプレイング)
生徒の学習状況の 評価 方法		定期考査の点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。				

「商品開発と流通」	単 位 数	3 単位
	学科・学年	生活情報科 第 2 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけます。 2 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
使用教科書・副教材等	商品開発と流通（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 基 準	備 考 (学習活動の特記事項 他)	考 査		
一 学 期	第 1 章 商品開発と流通の概要 1 私たちの生活と商品 2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通との関わり	4	○現代市場における商品開発と流通の概要について理解する。 ○商品開発と流通の意義と課題について、現代市場の特徴と関連付けて理解する。	○地元企業の方からの商品の企画についての講座の実施。	中 間 考 査		
	第 2 章 商品の企画 1 環境分析と意思決定の準備 2 市場調査 3 商品コンセプトの策定 4 商品企画の提案	5	○現代市場における商品開発と流通について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組む。				
		6	○商品の企画について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につける。				
		7	○商品の企画に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、商品を企画して実施し、評価・改善する。 ○商品の企画について自ら学び、経済や消費者の動向の動向などを踏まえ、商品の企画に主体的かつ協働的に取り組む。				
	【課題・提出物等】 1 授業の中で使用するプリント 2 次の(1)，(2)を定期考査終了時に提出してください。 (1) 各授業の板書内容と興味・関心を持った事柄をノートに記入し，提出します。 (2) 課題実習を出力したファイルを提出します。						
	【第 1 学期の評価方法】 1 考査の成績，プリントなどの提出物の内容，学習活動への意欲・態度などで評価します。 2 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。						

二 学 期	第3章 事業計画の立案 1 事業計画の概要 2 価格計画 3 流通計画 4 プロモーション計画 5 事業計画の作成	9	○商品開発と流通に係る事業計画について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につける。	○地元企業へ商品企画のプレゼンテーションによる提案。 ○地元企業と商品企画の協働。 ○地元イベントの積極的な参加。	中間 考 査
	第4章 商品の開発 1 商品仕様と詳細設計 2 プロトタイプ 3 商品とデザイン 4 ブランド 5 知的財産権の登録	10 11 12	○商品開発と流通に係る事業に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、事業計画を立案して実施し、評価・改善する。 ○商品開発と流通に係る事業計画について自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、商品開発と流通に係る事業に主体的かつ協働的に取り組む。		

【課題・提出物等】

- 1 授業の中で使用するプリント
- 2 次の(1)，(2)を定期考査終了時に提出してください。
(1) 各授業の板書内容と興味・関心を持った事柄をノートに記入し、提出します。
(2) 課題実習を出力したファイルを提出します。

【2学期の評価方法】

- 1 考査の成績，プリントなどの提出物の内容，学習活動への意欲・態度などで評価します。
- 2 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。

三 学 期	第5章 商品の販売 1 販売員活動 2 セールスプロモーション	1 2	○流通とプロモーションについて企業における事例と関連付けて理解する。	○地元企業へ商品企画のプレゼンテーションによる提案。 ○地元企業と商品企画の協働。 ○地元イベントの積極的な参加。	学 年 末 考 査
	第6章 商品開発と流通に関わる新たな展開 1 商品開発の新たな展開 2 流通の新たな展開 3 感覚を活かした商品開発・流通	3	○流通とプロモーションに関する課題を発見し，それを踏まえ，科学的な根拠に基づいて，流通とプロモーションに関する計画を立案して実施し，評価・改善する。 ○流通とプロモーションについて自ら学び，経済や消費者の動向などを踏まえ，流通とプロモーションに主体的かつ協働的に取り組む。		

【課題・提出物等】

- 1 授業の中で使用するプリント
- 2 次の(1)，(2)を定期考査終了時に提出してください。
(1) 各授業の板書内容と興味・関心を持った事柄をノートに記入し，提出します。
(2) 課題実習を出力したファイルを提出します。

【3学期の評価方法】

- 1 考査の成績，プリントなどの提出物の内容，学習活動への意欲・態度などで評価します。
- 2 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において，観点ごとの総括的評価を行う。

【年間の学習状況からの評価方法】

各学期末における観点別評価を基に，それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身につけている。	・ 定期考査 ・ 授業の中で使用するプリント
思考・判断・表現	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。	発表の内容や仕方・授業の中で使用するプリント
主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。	学習活動への参加の仕方や態度・授業の中で使用するプリント・ノート・配布物の整理
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	商品開発と流通は、とても身近にある存在です。日ごろから、買い物やニュース、新聞などで商品開発と流通分野に関心を持ちましょう。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	欠席した場合は、その日のノートや配布されたプリントを級友から借りて写させてもらい、わからないところを教えてもらうことが大切です。

「簿記」	単 位 数	2 単位
	学科・学年	生活情報科 第2学年情報コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 複式簿記の原理や日常発生する取引の記帳処理など，1年次に学んだ内容を基礎として，さらに進んだ段階の簿記を理解します。 2 株式会社の基礎的な知識を理解します。
使用教科書・副教材等	「新簿記」新訂版（実教出版） 最新段階式簿記検定問題集2級改訂版（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

（1）学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考 (学習活動の特記事項，他 教科・総合的な学習の時間・ 特別活動等の関連など)	考 査
一 学 期	1 特殊な商品売買の取引	4	・ 割賦販売・委託販売・未着商品販売・試用販売の意味を明らかにし，それぞれの記帳のルールを理解させて，習熟を図ります。 ・ 自己受為替手形の手形関係を明らかにし，その記帳のルールを理解します。 ・ 手形の書き換えの意味を明らかにし，その記帳のルールを理解します。 ・ 荷付為替手形の意味を明らかにし，その記帳を総合的に学習します。 ・ 記帳の合理化と帳簿組織の立案について理解を深めます。 ・ 複合仕訳帳の仕組みとその利点を理解します。 ・ 特殊仕訳帳の意味を明らかにし，現金出納帳・当座預金出納帳・仕入帳・売上帳を特殊仕訳帳として用いる場合の記帳，集計，転記のしかたを理解します。	・ 1年次に学習した手形の記帳について，理解の再確認を図ります。	中 間 考 査 期 末 考 査
	2 特殊な手形の取引	5 6			
	3 仕訳帳の分割	7			
	【課題・提出物等】 1 授業の中で使用するプリント。 2 次の2つを定期考査後に提出します。 (1) 各授業の板書内容と興味・関心を持った事項をノートに記入し，提出します。 (2) 問題集を解答し自己採点したものを，提出します。				
【第1学期の評価方法】 1 中間考査と期末考査の成績，小テスト，プリント・問題集の提出物の内容，学習への意欲・態度などで評価します。 2 小テストで70%，ノート，プリントなどの提出で20%，学習の意欲・態度で10%の配分で行います。					

二 学 期	4	5 伝票による記帳	9	5 伝票の集計・転記の仕方を理解します。仕入・売上傳票の起票の仕方を理解します。	1 年次に学んだ3伝票制を復習させ、記帳の合理化について考えさせます。	中 間 考 査 期 末 考 査
	5	本支店の取引	10	伝票の集計と転記の仕方を理解します。		
	6	本支店の財務諸表の合併	11	支店会計の独立による本支店間の取引及び本店集中計算制度による支店相互間の取引の記帳について理解します。		
	7	決算整理	12	財務諸表の合併手続きについて考察します。		
	8	財務諸表の作成		本支店合併の損益計算書・貸借対照表の作り方を理解させ、その作成に習熟します。	1 年次に学んだ決算を復習させ、記帳法について学習します。	
	9	株式会社の取引①		前章で学習した決算整理事項と関連させて、8桁精算表の作成について習熟します。		
	10	株式会社の取引②		株式会社の設立および開業、増資したときの取引の記帳の仕方を理解します。	検定試験に向けて総復習をします。	
【課題・提出物等】 1 授業の中で使用するプリント。 2 次の(1)，(2)を定期考査終了後に提出してください。 (1) 授業の内容や興味・関心を持ったことを記入したノートを提出。 (2) 問題集の問題を解答し自己採点したものを提出します。						
【2学期の評価方法】 1 中間考査と期末考査の成績，小テスト，プリント・問題集などの提出物の内容，学習活動への意欲・態度などで評価します。 2 学期全体の評価は，中間と期末の定期考査の成績，小テストで70%，ノート，プリント，問題集等の提出物の内容で20%，学習活動への意欲・態度で10%の配分でおこないます。						
三 学 期	11	総合復習	1	検定試験2級の範囲を復習しながら習熟します。	検定の模擬問題を解き，検定試験に向けて学習を進めます。	学 年 末 考 査
	12	企業会計の基礎	2	企業会計の意味，目的を理解させ，企業会計が発達してきた経緯を把握させる中で，企業会計の基礎を学習します。		
	13	会計法規と企業会計原則	3	- 企業会計制度の意味とそれを支える会計諸則を理解します。 - 一般原則と重要性の原則について理解します。		
【課題・提出物等】 1 問題集を1月下旬までに提出します。 2 学年末考査終了時にノート・問題集を提出します。						
【三学期の評価方法】 1 学年末考査の成績，ノート，問題集などの提出物，学習への意欲・態度などで評価します。 2 学期全体の評価は概ね，学年末考査の成績で50%，ノート，問題集などの提出物等の内容で30%，学習活動への意欲・態度で20%の配分で行います。						
【年間の学習状況からの評価方法】 1 学年末考査の成績，ノート，問題集などの提出物，学習への意欲・態度などで評価します。 2 学期全体の評価は概ね，学年末考査の成績で50%，ノート，問題集などの提出物の内容で30%，学習活動への意欲・態度で20%の配分で行います。						
【年間の学習状況の評価方法】 3つの観点から評価した1学期の成績，2学期の成績及び3学期の成績を総合し，年間の学習成績とします。						

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・ ノートは、板書をそのまま写すのではなく、自分で考えたことや感じたこと、興味を持ったことをメモしたり、整理すると、学習に広がりが生まれます。 ・ より合理的、能率的に記帳する方法を探究しながら学習を進めることが大切です。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	欠席した場合は、その日のノートを級友から借りて写させてもらい、わからないところを教えてもらうことが大切です。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	決算整理に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、作成した貸借対照表と損益計算書の意義や役割を理解しているか。 企業における取引の記録・計算・整理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、適切に処理しているか。	・ 定期テスト ・ 計算能力 ・ 記帳練習問題
思考・判断・表現	企業における取引の記帳・計算・整理に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。	・ 授業の中で使用するプリント ・ 練習問題
主体的に学習に取り組む態度	複式簿記の原理や日常発生する取引の記帳処理など、1年次に学んだことを基礎として、さらに進んだ段階の簿記に取り組もうとしているか。	・ 学習活動への参加の仕方や態度 ・ 練習問題 ・ ノート

3 担当者からのメッセージ

・ 生徒の皆さん一人ひとりが物事を合理的に考え、処理していく能力や生活態度を身に付けることにつながります。 ・ 1年間の学習を通して、簿記の学習と経理業務や商品売買業などビジネスとの関わりが分かるようになり、将来、皆さんが社会人として生活していく上で大変役立ちます。 ・ 学習を通して、簿記検定試験2級を受験し、資格取得が可能になっています。

「原価計算」	単 位 数	3 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第2学年情報コース

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 製造業における原価計算及び会計処理に関する知識と技術を習得させ、原価の概念について理解させる。 2 原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	原価計算（実教出版）最新段階式簿記検定問題集1級原価計算改訂版（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	学 習 内 容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など）	考 査 範 囲
第 1 学 期	第 1 編 原価計算の基礎	4	・工業簿記における勘定記入の特徴を理解させる。	・問題集等の提出。 ・小单元ごとの小テスト。	中間 考 査
	第 2 編 原価の費目別計算	5	・工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解させる。 ・工業簿記の一連の記帳手続きを学習させることに全体的な構造を理解させる。	・工業簿記と商業簿記との違いについて理解を深めます。	
		6		・小单元ごとの小テスト。 ・問題集等の提出。	期 末 考 査
		7		・計算を要する問題ばかりなので計算ミスがないように注意します。	
	【課題・提出物等】 1 反復式問題集や検定試験用問題集を総合的な復習の教材として利用し、提出・確認を行います。 2 小テストや間違い直しを記入したノートなどの提出・確認を行います。 3 配付した資料・練習問題などの提出・確認を行います。				
【第 1 学期の評価方法】 1 中間考査は、考査の点数を評価として示します。 2 皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点を ABC で評価します。					
第 2 学 期	第 3 編 原価の部門別計算と製品別計算	9	・単純個別原価計算のしくみを理解させ、原価計算表の記入方法を理解させる	・問題集等の提出。 ・小单元ごとの小テスト。	中間 考 査
	第 4 編 部門別原価計算の基礎	10	・部門別個別原価計算の必要性を理解させる。部門別個別原価計算の全体的な流れを再確認させる。生産形態の違いから、原価計算の方法も異なることを理解させる。		
	第 5 編 標準原価計算の基礎	11	・個別原価計算と総合原価計算の違いを明らかにする。		期 末 考 査
		12	・総合原価計算の種類と全体的な手続きの流れを理解させる。 ・製品の完成と販売、決算と本社・工場間の取引、原価計算と経営管理、標準原価計算・直接原価計算の方法についてします。	・問題集等の提出。 ・小单元ごとの小テスト。 ・全商簿記検定 1 級原価計算の受検にあたり、過去の問題等もしっかり学習します。	
【課題・提出物】 1 反復式問題集や検定試験用問題集を総合的な復習の教材として利用し、提出・確認を行います。 2 小テストや間違い直しを記入したノートなどの提出・確認を行います。 3 配付した資料・練習問題などの提出・確認を行います。					

	【第2学期の評価方法】 皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をABCで評価します				
第3学期	第6編 直接原価計算の基礎	1	・直接原価計算をすることで、損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解させる。検定の可否の判定により、合格の生徒は上級の学習、不合格の生徒は復習学習に分かれます。	・検定の可否によって取り組みが異なってきますが、何をすべきかしっかり判断します。	学年末 考查
		2			
		3			
	【課題・提出物等】 ・復習用に課す宿題プリント。 ・授業時に使用する問題集の提出。				
	【第3学期の評価方法】 皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点をABCで評価します。				
	【年間の学習状況の評価方法】 学習状況は、後に示した3観点から評価した1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習成績として評価します。				

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	・その時間に学ぶことを教科書で説明して、その後問題を解いていきます。解き方だけを覚えるのではなく、内容をしっかり理解したうえで問題を解きましょう。 ・問題集は類題がたくさんあります。内容が理解できたら、類題をたくさん解くことでより一層理解が深まります。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・内容を聞く時と問題を解く時のメリハリをしっかりとつけましょう。先生の指示をしっかりと聞いたうえで、自分がやらなければならないことに取り組んでください。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	基礎的・基本的な技術を身に付け、数計的に把握し、その成果を的確に財務諸表を作成して示すことができる。	・問題集の記入状況。 ・小テスト
思考・判断・表現	資格取得の選定の際多種にわたり選定し無理な計画は立てなかったか。また、逆に安易な計画ではなかったか。問題解決にあたり、担当教師に積極的に質問しその指導を素直に聞き入れ、取り組んだか。	・発言や発表の内容、教科書や問題集の記入状況。
主体的に学習に取り組む態度	毎回欠席・遅刻なく出席し、課題等の提出は期限を守ったか。課題以外の問題にも意欲的に取り組んだか。	・発言や発表の内容。 ・提出物への取り組み状況。

3 担当者からのメッセージ

原価計算の授業では、企業が仕入れた材料などを使って製品をつくる活動であり、そうした活動を含む企業の経営成績や財政状態を明らかにする方法を学びます。原価計算を学び、企業経営における会計の役割を、より広い角度から把握できるようになります。また、1月には検定試験も控えています。日々の授業を大切にして、検定に合格できるように学習していきましょう。

「情報処理」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第 2 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を身につける。
使用教科書・副教材等	情報処理（実教出版） 全商ビジネス文書検定模擬問題集3級（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	単 元 名 学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い 評 価 基 準	備 考 (学習活動の特記事項、他)	考 査 範 囲
第 1 学 期	3 情報の集計と分析 (4) 情報の整列・検索・抽出 (5) 問題の発見と解決の方法	4 5	・大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解させる。	・ガイダンスをよく理解し、無理のない目標設定を立てましょう。	中間 考 査
	4 ビジネス文書の作成 (1) ビジネス文書と表現	6	・文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解させる。		期 末 考 査
	【課題・提出物等】 1 課題 2 小テスト				
	【第1学期の評価方法】 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
第 2 学 期	(2) 基本文書の作成 (3) 応用文書の作成	9 10 11	・ワープロの利用に関する知識と技術を習得させ文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解させる。 ・ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解させる。	・ある条件と資料を参考に して、リーフレットを作成して、理解の定着を図る。	中間 考 査
	5 プレゼンテーション (1) プレゼンテーションの技法	12	・ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身につけさせる。		期 末 考 査
	【課題・提出物】 1 課題 2 小テスト 3 情報処理に関する実技				
	【第2学期の評価方法】 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
第 3 学 期	(2) ビジネスにおけるプレゼンテーション	1 2	・目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深めさせる。	・各種ソフトウェアを適切に活用し、様々な報告書や文書を作成、または発表する。	学 年 末 考 査
	【課題・提出物等】 1 課題 2 小テスト 3 情報処理に関する実技				
	【第3学期の評価方法】 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価する。学期末において、観点ごとの総括的評価を行う。				
	【年間の学習状況の評価方法】 各学期末における観点別評価を基に、それを総合して学年末に5段階の評定にまとめる。				

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけている	・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 練習問題集
思考・判断・表現	・企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・ 実習課題 ・ レポート ・ 練習問題集 ・ グループワークの取組
主体的に学習に取り組む態度	・企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ 定期考査 ・ 検定試験の取得状況 ・ 授業出席、授業態度
【観点別学習状況の評価】 「十分満足できる」状況と判断されるもの……………A 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………B 「努力を要する」状況と判断されるもの……………C		

3 担当者からのメッセージ

基本的技能や知識を理解し習得するだけでなく、それらを活用し工夫しながら学習する態度が不可欠です。

「ソフトウェア活用」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	生活情報科 第 2 学年

1 学習到達目標等

学習の到達目標	1 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 2 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
使用教科書・副教材等	ソフトウェア活用（実教出版） 全商情報処理検定模擬試験問題集3級（実教出版）

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学習のねらい	備考（学習活動の特記事項、他）	考 査 範 囲
第 1 学 期	1 企業活動とソフトウェア活用 (1)ビジネスにおけるソフトウェアの活用 (2)ビジネスにおけるソフトウェアの進化	4 5 6 7	・身近な事例を基にビジネスにおけるソフトウェアの活用を考える学習活動により、ソフトウェアの意義と重要性を理解させる。 ・ソフトウェアの進化が、社会に与える影響を考える学習活動により、関連する知識を身につけさせる。 ・Society5.0 が実現しようとしている社会について考察し、ソフトウェアの活用の例と目的を理解させる。	・ガイダンスをよく理解し、無理のない目標設定を立てましょう・ ・観光ビジネスの分野についても学習します。	中間 考 査 期 末 考 査
	【課題・提出物等】 1 情報処理検定問題集 2 小テスト 3 情報処理検定に関する実技課題				
	【第1学期の評価方法】 1 授業態度 2 定期考査 3 授業中の課題への取り組み状況及びその内容 4 検定へ向けた取り組み状況				
第 2 学 期	2 情報通信ネットワークの活用 (1)情報通信ネットワークの導入と運用 (2)情報資産の保護 3 表計算をソフトウェアの活用 (1)表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析	9 10 11 12	・ネットワーク機器の機能や情報技術の進歩に伴う通信手段の変化について理解し、それを活用するコンピュータやプリンタを LAN やインターネットに接続するための基礎的な方法や、情報通信ネットワークのシステム障害に対処するための基本的な技術を身につけさせる。 ・表計算ソフトウェアを通して、情報の集計と分析について理解させ、様々な集計方法、集計した情報から、分析結果を適切に表現する能力を身につけさせる。	・情報漏洩による被害例やセキュリティ対策について、身近な問題であることを学習します。 ・ビジネス活動のどのような場面で表計算ソフトを活かしていくかを学習します。	中間 考 査 期 末 考 査
	【課題・提出物等】 1 情報処理検定問題集 2 小テスト 3 情報処理検定に関する実技課題				
	【第2学期の評価方法】 1 授業態度 2 定期考査 3 授業中の課題への取り組み状況及びその内容 4 検定へ向けた取り組み状況				

第 3 学 期	(2)表計算ソフトウェアを用いたオペレーションズ・リサーチ (3)手続きの自動化	1 2 3	・表計算ソフトウェアを通して、オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、目的に応じて適切な手法を活用する能力を身につけさせる。	・これまで学んだ情報に関する基礎知識を活用し、自分の考えを表現しましょう。	学 年 末 考 査	
	【課題・提出物等】 1 情報処理検定問題集 2 小テスト 3 情報処理検定に関する実技課題					
	【第3学期の評価方法】 1 授業態度 2 定期考査 3 授業中の課題への取り組み状況及びその内容					
	【年間の学習状況の評価方法】 年間の学習状況は、後に示した3つの観点から評価した1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績を総合的に判断し、年間の学習の成果として評価します。					

確かな学力を身に付けるためのアドバイス	基本的技能や知識を理解し習得するだけでなく、それらを活用し工夫しながら学習する態度が不可欠です。
---------------------	--

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

皆さんの学習状況は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します

評価の観点及び内容		評価方法
知識・技能	・企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・ 定期考査 ・ 小テスト ・ 練習問題集 ・ 課題
思考・判断・表現	・企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	・ 実習課題 ・ レポート ・ 練習問題集
主体的に学習に取り組む態度	・企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	・ 学習活動への参加の仕方 や態度 ・ 配布物の整理

3 担当者からのメッセージ

現代社会において情報に関する知識・技能は生活に欠かせないものとなっています。主体的な態度をもって取り組みましょう。授業を受けるにあたっては1 始業時間を守る 2 実習室内や情報機器を丁寧に扱い清潔に保つ 3 授業時間内は十分に努力するの3点を心がけましょう。